

果樹情報 第8号 (R8.7.8~R8.7.22)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

なし「幸水」は満開後日数対比で平年よりやや小さく、「豊水」は満開後日数対比で平年並、りんご「ふじ」は満開後日数対比では平年並で推移しています。

表1 管内の生育状況(7月2日現在)

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比(暦日)	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	49.7	55.1	45.3	49.2	110	112
	ふじ(鏡石町高久田)	48.3	51.1	43.7	46.6	110	110
	ふじ(石川町沢井)	42.6	47.4	42.1	44.8	101	106
	つがる(石川町沢井)	54.7	59.5	47.8	53.2	114	112
	ジョナゴールド(石川町沢井)	48.9	54.1	46.5	51.6	105	105
	シナノスイート(石川町沢井)	45.7	47.7	44.1	47.0	104	101
もも	あかつき(須賀川市浜尾)	57.2	57.3	50.1	49.7	114	115
なし	幸水(須賀川市越久)	32.5	38.7	31.4	36.9	104	105
	豊水(須賀川市越久)	35.7	38.9	33.2	36.4	108	107

鏡石町のりんご「ふじ」は1998~2025年の28年の平均、石川町のりんご「シナノスイート」は2017~2025年の9年間の平均を平年値としている。そのほかの平年値は1996~2025年の30年間の平均。

2 栽培上の留意点

(1) 共通

ア かん水

5月から夏季にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6~7mm、曇天日で2~3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25~30mm程度(10a当たり25~30t)を目安として、5~7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2)なし

ア 生育予測(農業総合センター果樹研究所:福島市飯坂町)

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測は、収穫盛期が8月21日と推測されています。また、須賀川管内は県北地方より生育が2~3日ほど遅く推移するため、当管内の「幸水」収穫盛期は8月23日頃と考えられます。

イ 新梢誘引

「幸水」では、腋花芽着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合、新梢生長が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要があります。まだ終わっていない場合は急いで作業を進めるようにしましょう。

また、新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化なども期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。「豊水」の新梢は、湾曲・下垂しやすいことから、誘引により発生方向を整えましょう。

ウ 着果管理

仕上げ摘果はできるだけ速やかに終了しましょう。この際、着果過多にならないよう、単位面積当たりの着果量を確認しながら摘果作業を進めてください。なお、裂果が観察される時期の摘果は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので控え、裂果が収束（満開後 90 日頃、須賀川では 7 月 14 日頃）したら修正摘果を実施しましょう。

(3)りんご

ア 修正摘果

果実肥大や果形、障害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上のため支柱立て及び枝吊りを実施しましょう。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意してください。

(4)もも

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫が始まっています。核や胚に障害を持つ果実は、成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないように留意してください。

イ 修正摘果

硬核期が終了し、肥大不良果や変形果、核に障害をもった果実などが徐々に目立ってきています。収穫を控えた中生種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施するとともに、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮の一部が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらに注意して摘果を実施しましょう。

ウ 中生品種の収穫前管理

核障害の発生が多い場合には、核や胚に障害を持つ果実が早熟する傾向にあるので注意が必要です。「あかつき」等中生種は今月上旬～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。

3 病虫害防除

(1)リンゴ褐斑病

梅雨期は本病の二次感染期となるため、今後発生が急拡大するおそれがあります。本病の発生が既に認められる場合は、10 日間隔での薬剤防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

(2)リンゴ輪紋病、炭疽病

輪紋病または炭疽病の発生が多い園地では、両病害に効果がある薬剤を十分量散布しましょう。なお、炭疽病の発生を抑制するために、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去しましょう。

(3)モモせん孔細菌病

梅雨期は二次感染により発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。晩生種で本病の発生が多い場合は、防除暦に従い防除してください。

(4)モモホモプシス腐敗病、灰星病

梅雨期は灰星病及びホモプシス腐敗病の重点防除時期であるため、7月上旬及び中旬頃に両病害に効果の高い薬剤を十分量散布しましょう。薬剤防除は使用時期（収穫前日数）に十分注意して実施してください。

(5)ナシ黒星病、輪紋病

6月中下旬の本病の発生は場割合は平年よりやや高い状況にあり、（令和8年6月30日付け病虫害発生予察情報発生予報第4号）幸水では黒星病の果実感受性が高まる時期（満開後50日～90日頃）であるため、引き続き注意が必要です。罹病部位は見つけしだい除去して適切に処分するとともに、本病や輪紋病の多発が予想される場合は、7月上旬及び中旬頃に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。

(6)カメムシ類

飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう（表2）。

表2 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

調査日	須賀川市 和田六軒			須賀川市 越久			鏡石町 高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/15	6	0		7	0		3	0		0	0	
6/22	3	0		3	1		8	0		1	0	
6/29	0	0		13	0		9	0		0	0	
7/6	3	0		23	0		47	0		1	0	

(7)モモハモグリガ

第3世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、7月3半旬頃と予測され、第4世代の防除適期は7月4半旬頃と推定されます(表3)。

(8)ナシヒメシンクイ

第2世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、7月3半旬頃と予測され、第3世代の防除適期は7月5半旬頃と推定されます(表3)。

本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守してください。

(9)モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、10日間隔で2～3回防除を行きましょう。被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めるようにしましょう。

(10)ナシマルカイガラムシ

ナシマルカイガラムシ第2世代のふ化盛期は8月1半旬頃と推定されます(表3)。カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除するようにしましょう。

(11)ハダニ類

高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定(令和8年6月30日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第2世代 ふ化開始	第2世代 ふ化盛期
2℃高い	7月14日	7月17日	7月15日	7月21日	7月23日	8月1日
平年並	7月16日	7月20日	7月17日	7月24日	7月27日	8月5日
2℃低い	7月18日	7月23日	7月20日	7月28日	7月31日	8月10日

起算日: モモハモグリガ第2世代誘殺盛期(予測値) 6月 24 日
 ナシヒメシンクイ第1世代誘殺盛期(予測値)6月 14 日
 ナシマルカイガラムシ 3月1日 (演算方法は三角法)

(12)吸蛾類(夜蛾)

幼虫は果樹園周辺の雑木林で生息しますが、果実が熟す頃になると果樹園に飛来して食害します。果樹園外で発生して収穫直前に飛来するため、防除が困難な害虫です。

例年被害が発生する園地では、空き缶やペットボトルに糖蜜などを入れたトラップを園内 10 a 当たり数個設置し、吸蛾類を捕殺しましょう。

〈糖蜜の作り方 (2L 分)〉

- ・砂糖 200 g
- ・酒 200 g
- ・酢 200 g
- ・水 1,400 ml

- ①混合します。
- ②2Lペットボトルに2～3cmの窓を開け、①を適量入れます。

食餌誘殺用のトラップ



作成者: 県中農林事務所須賀川農業普及所
 電話: 0248-75-2181

ご不明の点は、最寄りのJAまたは須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、7月22日(水)です。